

# ろまん 報農

## 目 次

報農後援会会長に就任して……………	塩澤宏康 (2)
故河野義明後援会会長を偲んで……………	田付貞洋 (3)
第41回国際無脊椎動物病理学会に参加して……………	浅野希梨 (5)
報農会理事長退任・就任のご挨拶…	岩本 毅、上路雅子 (8)
平成20年度事業報告及び収支計算……………	(10)
平成21年度事業計画及び収支予算……………	(11)
報農会平成20年度事業報告……………	(12)
報農会育英費・奨学金受給者研究課題紹介……………	(13)
報農会刊行図書を紹介……………	(14)
第24回報農会シンポジウムのお知らせ	(15)
役員名簿 (15) 編集後記 (16) 会員消息 (17)	
特別会員名簿 (17) 育英会員名簿 (18)	

第 38 号

報 農 後 援 会

## 報農後援会会長に就任して

塩澤宏康

故河野義明会長の後任として、急遽会長を引き受けることになりました。微力ではありますが、本会の発展に多少なりともお役に立てればと思っております。会員の皆様にはよろしくご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

報農後援会は、植物保護を通してわが国の農業者へ報恩することを念願し、昭和 36 年に設立された財団法人報農会から育英費を受けた者、海外渡航費の援助を受けた者などが報農会の活動に協力し、会員相互の親睦、情報交換などを目的として、平成 2 年（1990 年）に結成されました。

初代会長の故本間保男氏のご尽力により、報農会の年間の事業による収支に少しでもプラスなればということで、シンポジウム「植物保護ハイビジョン」の開催を立ち上げました。また、「ろまん報農」の発刊などに伴って会員の皆様から納入された会費のうち、一人分の育英費に当たる金額を報農会に寄附することも、今日に引き継がれています。

21 世紀において解決されるべき大きな課題は「食料の確保」と「環境の保全」です。いずれも人間の社会に欠かす事が出来ない問題であり、植物の有効利用がその基盤であると考えられます。植物保護分野における研究の発展とその成果の活用は、食糧生産と緑の保全のために重要な役割を担っていることは間違いありません。

報農後援会における諸活動を益々活発にし、これからも植物保護に関わる方々の情報交換や研究発展に寄与できることを願っています。同時に、この「ろまん報農」が会員の皆様のご協力により長く続き、会員を結ぶ絆となつてご活躍の一助となることを願っています。

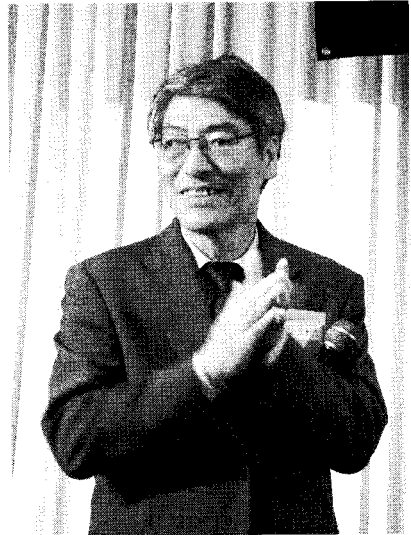
## 故河野義明後援会会長を偲んで

田付 貞洋

今年の正月8日、報農会理事、報農後援会会長の河野義明さんが急逝された。昨年末は河野さんと私が編者を務める新しい応用昆虫学の教科書の仕上げ段階であった。

河野さんは、暮が押し迫ってからも初校の校正やまえがきの執筆など、いくつもの仕事を快く引き受けてくださった。しかし、年明けの4日に受信したメールで、「自分の担当分はすべて年内に済ませて出版社に送った」という文の後に「12月中旬に末期がんと診断され・・・」と書かれていたので私は仰天した。そのときまで河野さんの体調の異変を全く知らなかったからである。

厳しい宣告を受けられてもなお、河野さんは自分の仕事に全力を投じられて、年末の30日にすべてを完成されたそうである。そして、「これで自分のやるべき仕事はすべて終わった。」



ありし日の河野義明会長

と言われ、上記のメールを「正月三が日を過ぎてから送信するように」と奥様に託されたとお聞きして、私は心底から衝撃を受けた。翌日の大晦日に緊急入院され、その後十日を待たずして旅立たれたのである。人生の最終局面をこれほど見事に生きることができるとは！

河野さんは東京大学農学部4年時に山崎輝男教授が率いる害虫学研究室に入られ、卒業後も大学院修士課程、博士課程をそこで過ごされた。その後、武田薬品研究所を振り出しに、国立予防衛生研究所（現、国立感染症研究所）、筑波大学と性格の異なる三つの職場を歩まれて、2006年3月に筑波大学を定年退職された。私は大学では河野さんの2学年後輩として同じ研究室に入り、その後亡くなられるまで大変長い間にわたってさまざまな面でお世話になった。

大学院ではモンシロチョウを材料に「休眠誘起と光周性に関する生理学的研究」に没頭されていたが、卒業論文のテーマは、「イエバエにおける有機リン剤の殺虫性とコリンエステラーゼ活性の関係」だったとのことである。就職後は再び研究の中心を殺虫剤に移され、一貫して「殺虫剤の作用機構ならびに抵抗性の機構」を中心とする非常に活発な研究を展開された。予研と筑波大においては「殺虫剤抵抗性の分子機構

解明」という先端的な研究を推進される一方、新型殺虫剤開発の基礎ともなるべき、「トレハラーゼ阻害剤の利用に関する研究」にも情熱を注がれた。さらに筑波大ではこれらの研究を通して多くの学生を指導され、斯学の発展にも大きく貢献された。一貫して自分に厳しく確固たる信念をもって研究・教育に当たられていたこと、そしてそれぞれの分野で多くのすぐれた業績をあげてこられたことは周知のことである。また、大学院で手掛けられた「昆虫の休眠生理に関する研究」は、研究の軸足を殺虫剤分野に移されたあとも大切にされ、これは後年（1990年）の「光周期による昆虫休眠決定の神経内分泌機構に関する研究」に対する応動昆学会賞の受賞に結実した。

さて、自らの研究にまい進される一方、河野さんは先輩、同僚、後輩の区別なく、周囲のさまざまな人々との交流をととても大事にされる方であった。友人やわれわれ後輩、学生には、ご自分の信念に基づいてしばしば厳しい苦言も言われたが、一方でいつも温かみのこもった目を注がれていた。「親分」のように慕う人間がたくさんいるのはそのためだと思われる。クールな科学の世界で研究者として第一線の活躍をされながら、義理人情を大切に生きてこられたところに河野さんの魅力があった。

応動昆学会賞受賞について述べたが、河野さんは応動昆の学会長を務められるなど、さまざまな学会・研究会でも大きな貢献をされた。報農会においても多年にわたりシンポジウム実行委員会委員を務められて毎年のシンポジウムの計画から実施に至るまでに多大の力を発揮されてきた。加えて2005年からは報農後援会会長を、2007年からは報農会理事の要職に就かれて財団の運営にも尽力されている最中であった。河野さんを失ったことは本会にとってまことに大きな損失と言わねばならない。

研究を離れば、河野さんは趣味の豊かな方であり、学生時代からお気に入りのヒョウタンゴミムシの採集を晩年にも続けられていたとうかがっているし、若いころはラグビー、サッカー、卓球といろいろのスポーツにも興じられた。また、しばしば友人や後輩を連れて酒を飲みつつ語らうことを楽しまれた。河野さんは大の日本酒党で、私も何度となくお伴をさせていただいたが、河野さんが乱れた姿は一度も見たことがない（こちらが乱れた不覚は何度もあるが）。その中で、河野さんがお好きだった浅草の街で最も大切にされていた「民謡酒場」に何度か連れて行っていただいたことは忘れられぬ楽しい思い出となった。

研究・虫・酒・民謡、そして人を愛した河野さん、どうぞ安らかにお眠りください。そして、これまで河野さんを力強く支えてこられた奥様はじめご遺族の皆様に改めて心から追悼の意を表します。

## 第 41 回無脊椎動物病理学会に参加して

東京農工大学大学院農学府生物制御科学専攻 浅野 希 梨

第 41 回無脊椎動物病理学会が 2008 年 8 月 3 日から 8 月 7 日の日程でイギリスの Warwick で行われました。イギリスという日本から遠い国での開催でしたが、報農会の国際学会渡航旅費のご援助のおかげで参加することができました。これまで、論文で名前を見てきた世界の研究者たちが一堂に会し、活発な議論を行っている姿をじかに見ることができました。それだけでなく、その研究者たちと交流するという、貴重な体験をすることができました。学会の参加を通して今後の研究に対する新たな目標設定ができたことも、大きな収穫の一つです。ここで、本学会で学んだこと、自分が体験したことについて報告させていただきます。

本学会は昆虫病原微生物である糸状菌、微胞子虫、線虫、ウイルス、細菌、そして微生物防除の 6 つの分野に分かれて、それぞれの発表や討議が行われました。発表には、口頭発表とポスター発表の 2 通りがあり、私はポスター発表に参加しました。ポスター発表は学会の 3 日目に行われ、だいぶ雰囲気慣れてきたころではありましたが、初めての学会発表で、しかも英語での発表ということもあり非常に緊張していました。発表開始前に、先生から「積極的に話すことを心がけるように」とのアドバイスを受け、ポスターに少しでも興味を持ってきていそうな人には積極的に話しかけるうちに、緊張も取れていき、自分の研究を他の人に知ってもらう喜びや、研究者との議論を行う面白さを感じるすることができました。私は「A new entomopoxvirus isolated from tea tortrix, *Homona coffearia*, in Sri Lanka」というタイトルで、茶の産地として有名なスリランカの茶樹害虫のハマキムシ (*H. coffearia*) から新しく発見された昆虫ボックスウイルスについて、本種と近縁の日本のチャハマキから分離された昆虫ボックスウイルスと性状を比較した内容の研究を発表しました。スリランカ出身で、アメリカ農務省の研究員である Perera 博士が熱心に発表を聞いてくれ、スリランカの気候や茶園など現地の状況を踏まえながらの貴重なアドバイスをくださいました。ポスター作成にあたり、データの見直しや、英語での文章作成など大変だったことは多々ありましたが、実り多いポスター発表となりました。

開催期間中、連日、分野ごとに口頭発表が行われ、私の専門分野であるウイルス分野を中心に発表を聞きました。シンポジウムはその年毎に最も関心の高いテーマが選定されて企画されており、最新の研究が取り上げられます。今年、ウイルス分野でシンポジウムが開かれたのは、ミツバチのコロニー崩壊症候群 (Colony Collapse Disorder

: CCD) についてでした。CCD とは、ミツバチコロニーが突然、女王蜂と生まれたばかりの働き蜂だけを残して崩壊してしまう現象です。CCD は欧米を中心に頻発していますが、養蜂業のみならず、ミツバチを受粉媒介者として利用する果実や野菜などの生産に悪影響を与えるため極めて重大な問題として認識されています。しかし、その正確なメカニズムは未だ明らかになっていません。CCD の発生原因としては、栄養失調や農薬散布による影響、免疫不全、イスラエル急性麻痺ウイルス (IAPV) や微孢子虫等の病原体など様々な要因が考えられています。本学会ではこれらの病原体の同定と動態、ミツバチの感染予防について多くの報告がありました。CCD の研究は社会的意義が大きく、その解決に向けて各国で研究が始まっていることがわかりました。

また、実際の農業現場での生物農薬の在り方などを学ぶため、微生物防除の分野の発表も多く聞きました。実際の企業研究者が微生物農薬普及のために世界中のそれぞれの場所で活動していることに感動し、環境負荷の少ない害虫防除法に多くの人々が関心を向けてほしいと思いました。

また、学会中、シンポジウムや発表の時間の他に、パーティーや遠足、5km レースなど様々なイベントが催されました。それらに参加することで、参加者同士の普段の顔や最近の動向などを知ることができ、お互いの距離が縮まっていくのを感じました。実際、私は 5km レースに参加し、開催場所の Warwick 大学の広い構内を早朝に散策し、日本ではなかなか見ることのない麦畑を横目に、他の参加者と連れだって完走しました。また、同日に行われた遠足では、かの有名なシェークスピアの生まれた町、Stratford-upon-Avon を訪れました。あいにくの雨でしたが、それまで話す機会の少なかった分野の学生と交流することができました。自分の専門分野ではない学生たちと国籍を超え、研究に関わる学生生活など研究を通じて様々な話をすることができました。

また、本学会に参加する前に 3 日間ほど Warwick 大学周辺の農家を訪ね、農業の現場を見せてもらう機会に恵まれました。他国の農業を直に見る機会は少ないですので、学会同様、貴重な経験をしました。私たちが尋ねた 4 件の農家は、日本に比べて大規模経営を行っているところが多く、全てが親の世代から続く農家でありながら、フードビジネスの一環として新しい時代の流通に乗った経営を行っている様子が印象的でした。その農家の中にトマトを主に栽培しているところがありました。そこでトマトは、湿度や日照時間などコンピュータ制御されたビニールハウスの中で、水耕栽培を

行い、ポリネーターとしてマルハナバチを使い、ほぼ無農薬栽培といえる形態で農業を行っていました。収穫されたトマトはすぐに箱詰めされ、あまり中間業者を介さずに流通するそうです。農家と消費者の距離が日本よりも近く、無駄が少ないように感じました。訪れたいずれの農家の方々も、農家であることの誇りを持ち、農業経営について生き生きと説明してくれていたのがとても印象的でした。このように、報農会の国際学会渡航旅費のご援助のおかげで以上の貴重な経験ができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



ポスター会場にて



農家の方々との一齣（左側から二人目が著者）

## (財)報農会理事長退任のご挨拶

岩本 毅

平成 18 年 9 月に、急逝された刈屋前理事長の後を受け継ぎ、報農会の運営に携わり早くも 3 年間が経過しました。

理事長に就任以来、報農後援会会員の皆様には大変お世話になり、重責を何とか果たすことができました。この場をお借りして皆様に心より感謝申し上げます。

この間、世界的な経済恐慌の中で、落ち込んだ経済を立ち直すべく種々の政策が打ち出されています。大きな転換点に立つ農政については、「食料・農業・農村基本計画」の見直しによる食料自給力・自給率向上等を目指した新政策の策定が鋭意進められています。

報農会は、我が国の植物防疫を下支えする機能を発揮すべく、次世代を担う植物防疫分野の専門家の育成、学術・技術の交流の援助等を通じて、農政・植物防疫事業の発展の一助となるよう努めてきました。

昨今、関係団体を取りまく諸情勢は、厳しい経営環境への対応と公益移行認定など重たい課題に直面しています。今般、このような諸課題に対応するため、報農会は若い力をもってより強固な執行体制を整えることになりました。

新理事長には第 17 期日本農薬学会会長を務められた上路雅子氏が就任されましたので、私同様皆様方にはよろしくご指導をお願い申し上げます。

今後とも、報農会が諸事業を通じて、植物防疫の発展に寄与すること、また、後援会会員の皆様の発展ご活躍を祈念してやみません。

## 就任のご挨拶

上路 雅子

去る 5 月 14 日に開催された定例理事会において、(財)報農会の理事長に選任されました。私は、昨年 3 月まで農林水産省所管の研究所で、主として農薬科学に関する研究に従事してまいりましたが、この間、報農会主催のシンポジウムへの参加や、国際会議への派遣旅費の援助など、多くの研究者が恩恵を受けてきました。報農会の事業は、植物防疫に関する人材の育成や学術・技術の研究支援、交流の場の提供など、大変地味な活動ですが、関係者のご努力により、植物防疫の発展に少なからず貢献してきたと思っております。今後、財政的に厳しい中での事業遂行であり、理事長とし



て身の引き締まる思いが致しますが、微力ながら最善を尽くす所存でございます。

また、常務理事には正垣 優氏が就任致しましたので、私共々皆様のご支援ご協力を賜りたく、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

## 常務理事退任のご挨拶

塩澤 宏 康

報農会には6年間若お世話になりました。その間役員を2期半務めさせていただきました。十分な仕事はできませんでしたが、報農会の事業活動に対しましては微力ながら頑張ってきたつもりであります。在任期間中に自費出版と報農会の刊行図書を含めて5冊の刊行に携わったことがささやかな思い出です。

また、報農後援会の理事も兼ねておりましたので、後援会の会員の皆様とは会報を通じてお話もできましたし情報も得ることもできました。「ろまん報農」の発行に当たり、原稿依頼等で無理なお願いをして大変ご迷惑をお掛けしたにもかかわらず、快くお引き受けいただき有り難うございました。感謝申し上げるとともに、この場をお借りしてお詫び申し上げます。なお、故河野義明後援会会長の後を引き継ぐことになりましたので、引き続き「ろまん報農」の発行もお手伝いさせていただきます。微力ではありますが、会員の皆様のご協力を得て後援会の発展に少しでもお役に立ちたいと心を新たにしております。

今後、法人の見直しによりまして、当報農会につきましても公益法人か一般財団法人かの判定がおりることになると思います。私の在任中は、資料の収集や農林水産省、公益法人協会等が主催する研修会には出席させていただきましたが、法人改革の法律の内容が充分理解できなくて、現在の寄附行為を今回の法人改革の基準にそった定款に作り変えるのが精一杯でした。その他諸々の提出書類の内容を充分理解しない内に引き下がることになりましたことを心残りに感じております。後任の方々にはご苦労をお掛けしますが、是非頑張ってください公益認定を勝ち取っていただきたいと思っております。それにより、報農会の今後の事業活動が益々発展することを期待しております。

最後になりましたが、在任中お世話になりました関係各位に6年間を無事過ごすことができましたことを衷心よりお礼申し上げます。皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り致します。

## 平成20年度事業報告

1. 会誌『ろまん報農』の発行・配布  
『ろまん報農』第36号を6月に、第37号を12月に発行、全会員に配布した。
2. 報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン-2008』“遺伝子組換え作物の現状と課題”（9月26日 「北とびあ」つつじホール）の開催に当たり実行委員として協力した。
3. 報農会の運営を援助するため、30万円を普通財産用寄付金として寄付した。
4. 本年度は育英会員1名、特別会員2名の入会があった。また、育英会員1名が逝去された。

平成20年度収支計算（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）

収 入 の 部				(単位：円)
科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
会 費	468,000	330,000	△ 138,000	
育英会員会費	272,000	162,000	△ 110,000	
特別会員会費	196,000	168,000	△ 28,000	
賛助会員会費	0	0	0	
前 受 会 費	22,000	38,000	16,000	次年度以降会費
寄 付 金	50,000	162,000	112,000	
雑 収 入	116	1,434	1,318	預金利息
前 期 繰 越 金	389,884	389,884	0	
収 入 合 計	930,000	921,318	△ 8,682	
支 出 の 部				
科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
事 業 費	150,000	146,000	△ 4,000	会誌発行
管 理 費	160,000	109,835	△ 50,165	
会議費	20,000	9,000	△ 11,000	
旅費交通費	10,000	0	△ 10,000	
通信運搬費	80,000	47,235	△ 32,765	
消耗品費	20,000	16,800	△ 3,200	
雑費	30,000	36,800	6,800	
寄 付 金	300,000	300,000	0	(財) 報農会へ
予 備 費	298,000	0	△ 298,000	
前 受 会 費	22,000	38,000	16,000	
次 期 繰 越 金	—	327,483	327,483	
支 出 合 計	930,000	921,318	△ 8,682	

## 平成21年度事業計画

1. 会誌『ろまん報農』の発行・配布  
『ろまん報農』第38号を発行し会員に配布する。
2. 財団法人報農会の諸事業（シンポジウム開催など）に協力し、植物防疫事業の推進にあたる。
3. 財団法人報農会の運営を支援するための寄付を行い、その事業推進に資する。
4. 会員増を図るの一環として、植物保護関係者に会員への入会案内を機会をとらえて行う。

平成21年度収支予算（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

収入の部				単位：円
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
会費	462,000	468,000	△ 6,000	
育英会員会費	264,000	272,000	△ 8,000	132名
特別会員会費	198,000	196,000	2,000	99名
賛助会員会費	0	0	0	(終身会員の会員を除く)
前受会費	14,000	22,000	△ 8,000	次年度以降会費
寄付金	50,000	50,000	0	
雑収入	517	116	401	預金利息他
前期繰越金	327,483	389,884	△ 62,401	
収入合計	854,000	930,000	△ 76,000	
支出の部				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
事業費	100,000	150,000	△ 50,000	会誌発行他
管理費	120,000	160,000	△ 40,000	
会議費	20,000	20,000	0	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	40,000	80,000	△ 40,000	
消耗品費	20,000	20,000	0	
雑費	30,000	30,000	0	慶弔見舞他
寄付金	300,000	300,000	0	(財)報農会へ
予備費	320,000	298,000	22,000	
前受会費	14,000	22,000	△ 8,000	
支出合計	854,000	930,000	△ 76,000	

財団法人 報農会 平成 20 年度 事業報告

1. 植物防疫に関する学術・技術分野における専門家の育成

- (1) 育英費の支給：5名の大学院生に対し育英費を支給した。
- (2) 奨学金の供与：5名の農業大学校在學生（農家子弟）に対し、奨学金と賞状を贈呈した。

2. 植物防疫に関する学術・技術の交流

国際交流に対する援助

国際学会出席者2名に対しそれぞれ渡航旅費の一部を援助した。

3. 植物防疫の発展に寄与した功績者の表彰（第23回）

功績者の表彰式を平成20年9月26日に「北とびあ」天覧の間で行い、伊阪實人、石川元一、石本 茂の3氏に功労賞を贈呈した。

4. 植物防疫に関する公開シンポジウム（第23回）の開催

『植物保護ハイビジョンー 2008』“遺伝子組換え作物の現状と課題”をテーマとして9月26日に「北とびあ」つつじホールで開催した。（参加者約200名）

講演

○遺伝子組換え作物の行政の推進方向 農林水産省農林水産技術会議事務局

横田 敏恭

○遺伝子組換え作物の栽培の現状と研究開発

独立行政法人農業生物資源研究所

田部井 豊

○輸入港周辺におけるセイヨウナタネ個体群の生態調査の結果について

独立行政法人農業環境技術研究所

松尾 和人

○遺伝子組換えによる花の新開発について

サントリー株式会社

田中 良和

○世界における遺伝子組換え作物による農業生産の現状と将来について

日本モンサント株式会社

山根精一郎

○遺伝子組換え作物 —世界の動向と今後の日本の展望—

宮城大学食産業学部

三石 誠司

5. その他の事業

- (1) 図書『作物害虫防除のための主要殺虫剤』（1000部）を刊行した。
- (2) 報農後援会の事務を処理し、会誌『ろまん報農』第36・37号の発行を支援した。

## 財団法人 報農会 育英費・奨学金受給者研究課題の紹介

### 1. 育 英 費

- 草 島 美 幸 (東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程)  
『植物の全身獲得抵抗性に対する環境ストレス応答シグナルであるア  
ブシジン酸が及ぼす影響の解析』
- 姫野 未紗子 (東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程)  
『イネいもち病菌に感染する菌類ウイルスに関する研究』
- 原 田 俊 幸 (京都大学大学院農学研究科博士課程)  
『昆虫脱皮ホルモン作用機構に関する研究』
- 久村 由美子 (島根大学大学院生物資源科学研究科修士課程)  
『オオムギの光誘導抵抗性に関与するイネいもち病菌の高分子物質に関する研究』
- 村 田 聡 樹 (神戸大学大学院農学研究科博士課程)  
『イネいもち病菌におけるトランスポゾン制御機構の解析』

### 2. 農家子弟奨学金

- 中 野 進 也 (青森県営農高等学校)  
『総合的病害虫・雑草管理 (IPM) による夏秋トマトの栽培』
- 深 井 大 輔 (埼玉県農業高等学校)  
『環境に配慮したゴボウの局所施肥・病害虫の適期防除栽培方法』
- 稲 吉 純 希 (愛知県立農業高等学校)  
『促成ナス栽培における台木品種比較』
- 中 川 貴 裕 (徳島県立農林水産総合技術支援センター農業高等学校)  
『川砂の客土あるいは土壌消毒とサツマイモの生育・収量および立枯病の発生』
- 大 石 貴 文 (宮崎県立農業高等学校)  
『デルフィニウムにおける黄色蛍光灯等を利用した夜蛾類防除可能性の検討』

---

## 財団法人 報農会 役員名簿 (平成 21 年 7 月 1 日現在)

理 事 長：上路 雅子

常務理事：正 垣 優

理 事：大内 脩吉

梶原 敏宏

竹下 孝史

田付 貞洋

館野 浩一

監 事：上山 功夫

松木 三男

顧 問：岩田 俊一

岩本 毅

八反田 一三

吉田 孝二

財団法人 報農会 刊行図書の紹介

2009年改訂「作物病害防除のための主要殺菌剤」

倉橋 良雄・山口 勇 著 (A4版、129ページ)

作物病害の防除薬剤は原則として適用作物と病原菌を定めて登録されており、防除薬剤を選択する際には、あらかじめ病原菌を同定する必要がある。作物病害の防除剤を選択する指針としては各県が作成している農作物病虫害防除基準が最も身近なものである。栽培されている作物の種類やそこに発生する病害は地域によって異なるために、それぞれの地域にあった薬剤選択が必要なわけである。また、現在わが国で登録されている農薬については(独)農林水産消費安全技術センター農薬検査部のホームページから知ることができる。最近では作物栽培の指南書などの他、都道府県の病虫害防除所、農薬企業、その他ホームページが充実してきており、コンピュータ上でネット検索することにより防除薬剤をある程度探すことができる。

本書では、すべてを網羅したものと地域対応のものとの中間を意識し、実際に被害が大きい病害に適用可能であり、広く使用されているなるべく多くの薬剤を作物別、病害別に手軽に検索できることである。また、利用される方々への利便性を考えて、主要病害の写真と解説及び薬剤使用に際しての知識を前半部分に加え、本文129頁で構成されている。選択した薬剤は平成19年10月1日から20年9月30日までの1年間(一部、平成21年3月31日までの販売実績を考慮)の出荷金額が5百万円~1千万円以上のもので、殺菌剤同士の混合剤を含めて掲載されている。座右の書として是非ご利用いただければ幸いである。

ご購入の方には実費2,500円で頒布の取り扱いをさせていただきます。ご氏名、ご住所を明記の上、Eメール、FAXなどで、下記までお知らせ下さい。本書と郵便振替用紙をお送りします。

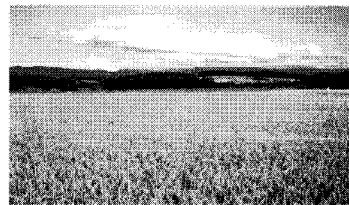
財団法人 報農会 〒187-0011 東京都小平市鈴木町2-772 番地

TEL & FAX 042-381-5455 E-mail: khono 511 @ car. ocn. ne. jp

2009年改訂

作物病害防除のための主要殺菌剤

倉橋良雄・山口 勇 著



財団法人 報農会

## お知らせ

第24回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン—2009』

### —— 食料自給力の向上と植物防疫 ——

\*日 時 平成21年9月25日(金) 10～17時

\*場 所 「北とびあ」つつじホール(北区王子1-11-1)

シンポジウム終了後、16階「天覧の間」で第24回功績者表彰式と祝賀会が開催されます。

表彰者は小島秀治郎(元滋賀県農業試験場)、関口義兼(元農業検査所)、安田弘之(元岐阜県農業試験場)の3氏です。是非ご出席下さい。

問い合わせ先 報農会事務局 TEL/FAX: 042-381-5455

## 報農後援会 役員名簿 (平成21年度)

会 長: 塩澤宏康

常任理事: 井上智広(アグロカネショウ(株)) 重野武夫(シンジェンタジャパン(株))  
野田博明(農業生物資源研究所)

理 事: ◆東日本地区〈北海道・東北・関東・甲信越〉

古市尚高(新潟大学)

◆中日本地区〈東海・北陸・近畿〉

景山幸二(岐阜大学)

◆西日本地区〈中国・四国・九州〉

岩井久(鹿児島大学)

監 事: 日比忠明(法政大学) 米山勝美(明治大学)

顧 問: 荒井啓 上村英雄

小島誠 近藤栄造

## 編 集 後 記

先回、この場を借りて将来の日本農業について一言述べさせていただきましたが、更に考えますと先進国の中で最下位の農業生産の我が国が食料自給率の向上（70%）と安全・安心な農産物を確保するには、現状の農業生産体制を根本的に見直す必要があるように思います。戦後、日本の鉱工業産業等の第二次産業を支えたのは、農業生産でプールしていた労働力を都会の工業生産に振り向けることができたからだと思えます。昨今の世界的な経済危機の中では、都会での第二次、三次産業で余った労働力を農業生産現場に吸収出来るようなシステムを考えてはどうかと思えます。まずは農業後継者を育てることは一番ですが、現在の高齢者農業を如何に持続して行くかが当面の課題と考えます。今年は農地法が改正されて企業が資本力により大農地を確保、農業経営ができ、しかも50年間農地として借用ができることになるようです。しかし、日本の農業では、大土地所有の農業形態だけでは日本全体の水田を中心にした農業は成り立たないため、中小且つ零細な家庭農業も含めた農業生産体制を将来的にも取らざるを得ないでしょう。そこで、先号でも述べたように、中小且つ零細な家庭農業を守るには高齢者でも生産に従事できるような体制を国の政策として考えるべきではないでしょうか。若い労働力は二、三次産業へ、定年退職された高齢者の労働力は農業等一次産業の生産に提供されることは如何でしょうか。

今号では、前報農後援会会長の故河野義明様の追悼文を特別会員であり報農会の理事でもあられる田付貞洋様（前東京大学教授）より寄せていただきました。また、昨年8月にイギリスのWarwickで開催された第41回無脊椎動物病理学会に出席された浅野希梨様から、渡航費援助に対する報告を兼ね寄稿いただきました。浅野様には紙面の都合により掲載が遅くなりましたことのお詫びとともに、両方にこの書面を借りて御礼申し上げます。

会員通信である「ろまん報農」の発行が、諸般の事情により本年から年1回の発行となりました。今後とも紙面の充実に努めてまいりますので、これまでと同様ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。  
(塩澤宏康)

- 皆様のご支援に深くお礼申し上げます。
- 後援会費は年2,000円です。会費の一部は本会の主旨により「(財)報農会の発展」のために寄附させていただいております。
- 会報発行等の事業を円滑に進めるため会費納入について、皆様のご協力をお願い致します。
- 郵便振替口座番号00140-1-121402

第38号 平成21年7月15日発行  
 発行者 塩澤宏康  
 発行所 報農後援会  
 〒187-0011 小平市鈴木町2-772  
 (社)日本植物防疫協会資料館内  
 TEL・FAX 042-381-5455



## ☆ ☆ 〔 会 員 消 息 〕 ☆ ☆

○訃 報 育英会員 河野義明氏(平成21年1月8日逝去)謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○報 告 故河野義明前後援会会長の奥様から後援会に多額のご寄付をいただき、また、この寄付金は河野基金として定期預金に積み立てることを常任理事会で決定致しました。



## 報農後援会特別会員名簿 (21.7.1現在 110名)

荒木 隆男	有本 裕	池庄司敏明	池田二三高	池山 雅也	伊藤 嘉昭
稲葉 忠興	井上 忠男	岩井 久	岩田 俊一	上垣 隆夫	上山 功夫
内田 俊郎	梅田 芳春	瓜谷 郁三	遠藤 武雄	大内 成志	大川 義清
大畑 貫一	岡留善次郎	利部 伸三	加来 久敏	梶原 敏宏	加藤 肇
神田 昭夫	北 宜裕	国見 裕久	久能 均	久保 康之	藏納 久男
小菅喜久彌	小林 義明	小原 裕三	近藤 和信	後藤 哲雄	佐久間 勉
重松 喜昭	獅山 慈孝	篠原 正行	下村登志雄	管原 敏夫	杉野多萬司
鈴木 昭憲	鈴木 健	鈴木昭治郎	諏訪内正名	関口 義兼	多賀 正節
高久 恒夫	高田 昌稔	高橋 史樹	高橋 信孝	高橋 英樹	瀧川 雄一
武市 敏男	竹田 勇	多々良明夫	田付 貞洋	館野 浩一	田中 敏夫
谷口 武	田畑 勝洋	田濱 康夫	田村 多利	土崎 常男	土屋 健一
都築 詢	露無 慎二	寺岡 徹	寺中 理明	藤條 純夫	仲井まどか
仲川 正義	中北 宏	中村 廣明	成田 直樹	根本 久	橋本 晃
早川 充	原田 達夫	平井 一男	平塚 利子	平野 恒	古市 尚高
古澤 巖	古橋 嘉一	堀川 知廣	牧野 孝宏	松本 義明	松山 宣明
満井 喬	宮田 正	務川 重之	室伏 旭	八木 繁実	矢野 文雄
山岡 直人	山口 勇	山下 功	山下 修一	山田 忠男	山中 達
山根 久和	山本 出	横田 孝雄	吉田 孝二	吉野 嶺一	米山 伸吾
與良 清	脇本 哲				

## 報農後援会育英會員名簿 (21.7.1現在 132名)

( ) 内は年次順番号

桜井 成( 2)	安田 康( 4)	小泉 銘冊( 6)	谷口 尚温( 7)	小島 誠( 8)
上村 英雄( 9)	池上 晋(11)	永田 徹(12)	中山 勇(15)	岡田 大(18)
林 士珍(19)	小嶋 昭雄(20)	善林 六朗(21)	荒井 啓(28)	桜井 宏紀(29)
大橋 祐子(30)	伊藤 達也(31)	櫛下町鉦敏(32)	木村 滋(33)	川田 雅昭(35)
道家 紀志(36)	小島 峯雄(37)	盛一 嘉則(39)	山崎 素直(41)	廬 耀村(45)
児玉 吉勝(46)	岡本 恵勝(47)	米山 勝美(49)	近藤 栄造(51)	汐崎 正生(53)
本間 善久(54)	湯本 悦次(55)	浜村 徹三(56)	宇佐美 進(57)	中野 昌俊(61)
本田要八郎(62)	重光 善弘(65)	松本 勤(67)	重野 武夫(68)	本山 直樹(71)
塩澤 宏康(72)	平井 正志(79)	大内 晴(80)	田代 茂喜(84)	森 章夫(85)
与那覇哲義(86)	守山 義明(88)	神谷 勇治(89)	山口 堯士(91)	山口 裕紀(92)
井上 智広(93)	小林 紀彦(94)	仲谷 房治(96)	日比 忠明(99)	大嶋 保夫(101)
芦原 亘(102)	桜井 勇(103)	松下 一信(105)	明田 功(106)	吉川 博道(108)
橋本 伸一(109)	倉持 正実(110)	宇郷 裕三(111)	佐藤 五月(115)	伊藤 高明(116)
今野 清隆(118)	古川いくよ(120)	小金澤碩城(122)	小野 知洋(126)	林 三徳(129)
落合 進(131)	廣岡 芳年(133)	野田 博明(135)	大塚 公人(136)	武田 敏夫(139)
加藤 重博(140)	矢野 栄二(144)	渡辺 司(147)	安田 誠(148)	井上 博雅(149)
中川 仁(153)	上運天 博(156)	小作 明則(159)	久場 洋之(161)	向島 博行(162)
景山 幸二(165)	尾崎 政博(166)	川原 圭生(171)	松尾 憲総(172)	名和 哲夫(176)
奥田 隆(178)	橋本 恵子(179)	嶋田 正和(180)	川北 一人(181)	鳴海 金吾(182)
門馬 孝之(184)	横山 和成(186)	若山 健二(187)	齋藤弥生子(189)	柘植 尚志(191)
藤卷 伸一(195)	沢辺 京子(197)	船城 衛介(200)	黄 思良(205)	大海みゆき(206)
諸岡 直(207)	河合 守雄(208)	柳原 隆(209)	梁 泳烈(210)	郡嶋 浩志(212)
長門 涉(213)	張 蘊恵(217)	盧 聖煥(219)	藤田 昭彦(221)	布目 司(222)
吉賀 豊司(224)	崔 用華(225)	田中 弘幸(226)	王 敬銘(227)	大島 由行(230)
門 宏超(232)	カルニンチ寛子(233)	長岡 真帆(236)	大野 彩(237)	和田 行央(241)
中村 正幸(243)	瀧 瑞人(244)	成田 匡邦(246)	加藤 ハナ(250)	藤田 景子(251)
高橋 祐子(259)	水野 壮(264)			